

守られている命

郡山西中学校

二年

藤森 ふじもり

美花 みか

土砂災害。激しい雨が降る時だけでなく、雨量が少なくても長い間降り続くと起こったり、地震でも起こり、大量の土砂が流れてきて、命を奪うとても怖い災害。

昨年、私の住んでいる近くの地域で、激しい雨によって、危険な状態であると緊急災害情報が何度も何度も鳴った。幸い土砂災害は起こらず良かったが、降り続く激しい雨の音と緊急災害情報を知らせるメールの音が重なり、恐怖だったことを忘れてはいない。

恐怖の夜が明け、朝には、川があふれ浸水被害にあっている地域、土砂災害が起こった地域、尊い命が奪われたなどの恐ろしい内容のニュースばかりが、テレビの画面に映り続けていた。日が経つごとに増えていく土砂災害によって、命を奪われた人の数……。自然災害の恐怖を知らされた。

私は、テレビなどで、土砂災害の被害にあ

2

われた方の話を聞いたリ、土砂災害のパネル展を見に行くなどして、いろいろなことを知ることができた。想像を絶する土砂災害の恐ろしさ、命を守るために砂防ダムが建設されていること、災害にあった地域は、起こった後に、しっかりと対策がなされていた。また、土砂災害の被害にあわないように、どのような状況が確認されたら、災害が起こりやすくなっているサインであったり、警報にも危険度や現在の状態によって、分類されているな

2

どたくさんのことを目にし、耳にした。

ふと、災害情報メールについて思った。危険な状態であることを知らせてくれているのだ。危険の少ない時に避難するように、こまめに気象情報や山や川などの状況を確認し、私達に送ってくれている人達がいる。土砂災害から大切な命を守るために、砂防ダムを建設してくれる人達がいる。浸水や体調不良などいろいろな事情で、避難することができなくなつた人達を救護する人達がいる。また、

災害にあわないよう、災害にあってしまった時に、どのように避難すれば良いのか、避難訓練などをおこなってくれる人達。どのような状況で、尊い命が奪われたのか、二度と起こらないように現場を検証し、対策をおこなってくれる人達。

私達は、どんなにたくさんの人達によって命が守られているのだろう。確かに災害は、とても怖い。しかし、怖い怖いと思っているだけではいけない。こんなにもたくさんの人達の手によって、私達は守られているのだから。

突然、奪われた命。この尊い大切な命を無駄にすることなく、現在生きている私達が、命を受け継いで、恐ろしく悲しい災害にあわないように、いろいろな対策がなされている。私達は、生かされている命を大切に、災害が起こりそうな時に、何もわからず焦ってパニックにならないように、避難経路の確認、災害時の食料や水などの備蓄準備、避難訓練

に参加して、体で覚えておき、速やかに避難
できるように、しっかりと前もってするよう
にしなければならぬなと思った。

私達の命を守るために、一生懸命になって
頑張ってくれている人達のためにも、私達が
できることは、一緒になって、協力していく
ことで、被害が少しでも少なくなるのではな
いかと思う。

4

今年も、各地で土砂災害や浸水などの被害
が起こっている。過去最高の雨量など、被害
が起こっておかしくない状況になってしまふ。
異常気象という言葉をよく耳にする。このよ
うな気象になっているのも、私達が環境を破
壊していったことが原因の一つである。それ
により、自然災害の恐怖にさらされているの
である。

破壊された自然を戻そうと植樹したり、環
境に優しい製品が開発されたり、いろいろ
働きがおこなわれている。

私達は生きています。たくさんの人達の手に

4

5

5

よって守られながら。なんて素晴らしいのだらう。守られているこの命を大切に、災害が起こらないよう、自分ができること、自分には何ができるかを考えて、頑張ってくれている人達のカになれるといいなと思う。